

雑談力の講義で会話を弾ませる受講者(大阪市住吉区)



「コミュニケーション力」「商談に生かせる」

スポーツ用品大手のミノは11月、「新聞のちから」研修を初めて導入した。受講したのは、法人営業部と、野球とソフトボールを通じたビジネスを展開するタイアモンドスポーツ事業部に所属する20〜30歳代の計59人。全国各地で勤務しており、2グループに分かれて大阪と東京で講義を受けた。狙いは「コミュニケーション力の向上。コロナ禍ではオンラインでの営業も多かったが、経済活動が少しずつ戻り、1割以上が対面での営業になっている」と岡本健・法人営業部長は話す。会話を通じて取引相手との信頼関係を作り、相手の考えや情報を引き出して理解する力が

- 10人から数百人までOK
- 新聞がテキスト
- 研修費 1人4400円〜

2017年に発足した「新聞のちから」委員会は、新聞を教材に研修や講義を有償で実施しています。これまでに導入した企業・団体・学校は235を超えました。講師はベテランの新聞記者経験者で、取材、執筆、編集活動で培ったノウハウを生かしたメニューを用意しています。毎日届く新聞を教材に、就職内定者から新入社員、幹部や経営トップまで幅広い層に対応し、ご要望に応じて内容のカスタマイズもできます。

問い合わせは

読売新聞大阪本社「新聞のちから」委員会事務局  
電話 06・6366・1880 (平日午前10時〜午後5時)

point

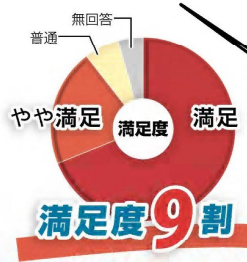
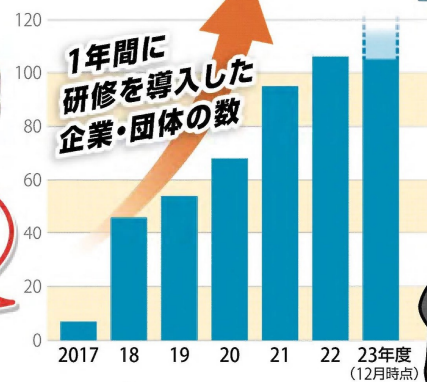
# 記者経験者が教える 読む 書く 話す

読売新聞大阪本社「新聞のちから」研修を導入する企業や団体が年々、増えている。特に、コロナ禍が落ち着いた対面営業に戻ったり、働き方改革が進んだりと変容が続くビジネスの場で、「読む」「書く」「話す」力の向上を重視するケースが目立つ。新聞を教材に、新聞記者のノウハウを生かした文章のまとめ方やコミュニケーションのコツを学ぶ内容は「すぐ実践できる」と好評だ。

## 新聞のちから

### 人事担当のみなさま!

### ビジネスで活用 増えています



※受講日ごとに計4回アンケートを実施。回答数のべ116



メール o-chikara@yomiuri.com  
新聞のちから 大阪

## 就活にも 視野広がる



撰南大学豊屋川キャンパスでは11月初旬、1〜3年生35人が新聞を広げ、効率的な新聞の読み方を学び、論理的な文章に親しむトレ

ーニングを体験した。「読み続けることで、就活の面接や自己PRに時代性、今日性を盛り込める」。講師が説明すると、学生た

新聞を広げ、記事を探す学生たち(豊南大学豊屋川キャンパス)

ちはページをめくって興味を持った記事を選び、簡潔にまとめて感想などを盛り込んで発表した。

同大学は今年度から、コミュニケーションアップを目指す就活プログラムを始めた。学生が早め準備を始めるための支援で、その一つとして「新聞のちから」の講義を採用した。西田太郎就職部長は「ネットではなく新聞を読むことで視野を広げ、知識や話題が豊かになるよう期待している」と話している。



朝刊のページをめくりワークを行う受講者(大阪市のロンコ・ジャパンで)

## 中堅社員のリーダー育成

中堅社員の指導力向上を図るため、新聞を使った研修を取り入れる企業もある。物流・倉庫業の株式会社ロンコ・ジャパン(本社・大阪市)では10月から毎月1回、本社の管理職と各地の支店責任者ら計25人が受講している。宮口翼取締役は「強いリーダーを育てるため、基礎となる研修を求めている。新聞を活用することに興味を持った」と話す。物流業界は、時間外労働時間の

上限が規制され運転手不足が深刻化する「2024年問題」への対応を迫られている。中堅社員の役割は重要で、仕事に欠かせない簡潔・正確なやりとりを身につけるには、新聞が有効だと考えたという。11月の講義では、童話の要約と、朝刊1面のコラム「編集手帳」の要旨をまとめるワークが行われた。受講者は講師の助言を受けながら、文意を正しく捉える技術を磨いた。